

受付番号		課題番号	
------	--	------	--

自由学園最高学部 2026 年度研究奨励金 申請書

自由学園最高学部
最高学部長 高橋 和也 殿

応募要項にもとづき、奨励金を申請します。

申請日 20XX 年 XX 月 XX 日

ふりがな	じゅう たろう		所 属 と 学 年	
申請者氏名	自由 太郎		最高学部	X 年
連 絡 先	住所	〒 000-0000	東京都東久留米市学園町 1-8-15 記念学寮	
	自宅電話	000-000-0000	P C メール	XXXXXXXXXXXXXXXXX@xxx.xxx.ac.jp
	携帯電話	000-000-0000	携帯メール	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX x@xxx.xxx.ne.jp

1 研究課題	主題をここに書いてください。 —副題はここ。なければ横棒ごと削除してください—	2 助成申請額（いずれかに丸）	
		[] 50,000 円	
		[] 100,000 円	
		[] その他 ()円	

3 研究内容

どのような研究を行うかを、研究の動機や目的とあわせて説明してください。可能ならば、これまでの準備状況や今後の研究計画（何をいつまでにどのように行うか）も述べてください。

ここに研究内容を記載してください。記入にあたって、回答欄が足りない場合は枠を下に広げて構いません。**なお、この説明文は削除してください（以降の項目も同じ）。**

研究は誰もが行うことができます。最高学部の領域横断研究・経営実践研究・生活経営研究実習・4 年課程卒業研究・2 年課程卒業勉強などからテーマを定めることは想像が容易かもしれませんが、他にも教養科目・技能科目・感性科目・ライフデザイン科目などの講義から研究内容を定めても構いませんし、ネパールワークキャンプやデンマーク研修やポーランド研修などの生活教育カリキュラムから内容を定めても構いませんし、設定は自由です。大切なのは、アイデアやプランがあること、そして研究を行う力や環境があることです。すでに準備していたり成果があったりすれば尚よいです。何のためにいくら資金が必要と書けばもっとも明快です。そして、その研究がどういう結末を迎えるかのイメージも大事です。この説明は次の項目に続きます。

4 研究意義

研究の学術的な意義、社会的な効果、あるいは自由学園らしさ、などについて述べてください。

上記の続きの前に、研究の意義とは何か考えてみましょう。そのためには、学校のお金を使いますので、学校が何を皆さんに求めているかを考えるとよいでしょう。それはとにかく、皆さんの成長です。本研究を通して皆さんの最高学部生における成長が加速することを願います。それが期待できるアピールをこの欄ではしてください。皆さんの研究ですから、もっともよくわかっているのは皆さんです。その研究の背景には何があるのかをここでは述べてください。そして上に戻って、研究計画ですが、とにかくここまでやるのだという意思表示をしましょう。目標に向けての努力さえしてくれれば、できなかったのとお金を返せというような野暮なことは言いません。例えば TOEIC の点数が現在 400 点なのをこういうことをして 800 点をマークするというのも立派な成果です。教養をつけるということはそれ自体が社会貢献です。

5 研究指導者氏名（職業・学位など）

研究が円滑に計画・遂行できるよう、必ずどなたか適切に指導できる方をたててください。原則的に自由学園の教員とします（最高学部の教員が望ましい）。採択された場合、経費の使用状況もご確認いただくことになりますので、その了解を必ず取ってください。

記入例：遠藤敏喜 最高学部教授・博士（理学）

6 研究経費

申請額の積算根拠と具体的な支出計画を説明してください。

ここには研究遂行上かかる費用の内訳と役割を可能な限り明確にしてください。助成対象となる費用は、申請された研究課題の遂行に要する書籍や物品の購入、旅費・滞在費ほか研究推進に直接必要な費用とし、研究の目的と計画に照らして合理的な範囲とします。なお、研究奨励金を最高学部の校納費にあてることはできません。

また、採択された場合、研究期間中の領収書やレシートは、報告書提出の際に照会することがありますので、処分せずに手元に残しておいてください。